

# 第11回 自然免疫シンポジウム

## 『アンチエイジングと自然免疫』

日時：令和5年3月10日(金) 13:00～17:45 (12:00受付開始)

場所：AP品川 Fルーム (東京都港区港南1-6-31 品川東急ビル8F)

参加費：無料 会場定員100名:申込先着順

※講演は後日オンデマンド配信を予定

### プログラム

13:00～13:20 開会挨拶 (予定)

自然免疫制御技術研究組合 代表理事 杉 源一郎  
経済産業省 商務情報政策局 生物化学産業課  
一般財団法人バイオインダストリー協会  
一般財団法人四国産業・技術振興センター

13:20～16:20 講演 (前半の部) 座長:河内 千恵 (自然免疫制御技術研究組合)

(13:20～14:40) 「Paneth細胞・ $\alpha$ ディフェンシンによる  
自然免疫機能を介した腸内細菌叢制御」

中村 公則 氏 (北海道大学大学院 准教授)

14:40～15:00 休憩

(15:00～16:20) 「アンチエイジングにおける免疫の役割」

辻 直樹 氏 (医療法人社団医献会 辻クリニック 院長)

16:20～17:40 講演 (後半の部) 座長:長岡 武馬 (自然免疫制御技術研究組合)

(16:20～17:00) 「自然治癒力を高める機能性糖脂質の開発」

小田 真隆 (自然免疫制御技術研究組合 特任研究員)

(17:00～17:40) 「マクロファージの抗老化ポテンシャル」

稲川 裕之 (自然免疫制御技術研究組合 研究開発本部長)

17:40～17:45 閉会挨拶

万一、政府・東京都等から開催中止要請があった場合には、  
本組合が開催の可否等を判断し、その旨を皆さまにご連絡させていただきます。

主催 自然免疫制御技術研究組合

後援 経済産業省、香川県、(国研)科学技術振興機構、(公財)北海道科学技術総合振興センター、  
(国研)農研機構生研支援センター、新潟薬科大学、(一財)バイオインダストリー協会、(公財)かがわ産業支援財団、  
(予定) (一財)四国産業・技術振興センター、四国健康支援食品普及促進協議会、日本バイオ治療法学会、  
統合医療機能性食品国際学会

◆問い合わせ先◆

自然免疫制御技術研究組合(中本・細川・川西) TEL:(087)813-9201 FAX:(087)813-9203

# 第11回 自然免疫シンポジウム

## 『アンチエイジングと自然免疫』の開催にあたり

昨年度のシンポジウム『環境・常在細菌と自然免疫—パート2—』は関係の皆様方のお力添えのお陰をもちまして多くの皆様にご来場頂くことができました。関係の皆様方に篤くお礼申し上げます。今回のシンポジウムは会場を新たに開催する運びとなりました。多くの皆様のご来場をお待ち申し上げます。

さて「自然免疫制御技術研究組合」は、糖脂質(リポ多糖、LPS)等を用いて自然免疫を制御する有用な技術を開発する目的で、平成22年3月8日、経済産業省の認可を受け、全国で12番目、四国では初めての技術研究組合として設立されました。現在、自然免疫活性を制御するさまざまな新規な素材の研究開発に取り組むとともに自然免疫制御による健康維持戦略の確立に向けリテラシー向上にも力を注いでおります。

今年度もLPSの健康維持効果に関する論文を複数刊行することができるとともに、組合の研究活動が評価されて免疫研究の分野ではトップファイブにランクするFrontier in Immunologyで特別号を編集することになりました。この特別号ではLPSは今や生体の健康を維持するうえで欠くことのできない必須の成分であるとの考え方のもと投稿を呼びかけております。このことは自然免疫やマクロファージ研究はいまや健康維持・疾患予防に大きな可能性をもち、将来的にみて有望な研究分野であることを世界が認めつつあることを示していると考えております。以上の背景を踏まえて、自然免疫機能を安全・安心に制御するLPSに焦点を当てた研究開発はSDGsが重要とされる現代社会にあって健康に焦点をあてた重要な取り組みの一つであると確信するところです。

ところで、日本が長寿国家であることは誇るべきことでありますが、その一方で、高齢化に伴い医療費が増加している事実にも表れているように、必ずしも健康とは言えない状態にある高齢者も少なくありません。また今般の新型コロナ感染症で目の当たりにしたように、グローバル化が進んだ現代において、新興感染症のパンデミックが大きな問題です。従いまして、このような新興感染症対策を含めて、超高齢社会において良好なQOLを保つ対策を具体的に提供することは、今後の大きな課題の一つであることは明らかです。その具体的な展開として近年自然免疫やLPSが老化という究極の病を如何に防ぐのかという視点に立った研究領域が広がりつつあります。

そこで、「第11回自然免疫シンポジウム『アンチエイジングと自然免疫』」では、自然免疫機能やLPSは老化と戦えるのか、その結果、若い体を保つことに貢献するのかなど、につきまして、最新的话题を取り上げ広く一般の皆様にご公開するものです。

本シンポジウムでは、以上の分野で先駆的な研究を展開しておられる先生方をお招きしてご講演をお願いすることと致しました。ご講演頂く先生方は、北海道大学大学院 先端生命科学研究院准教授 中村 公則 先生、医療法人社団医献会辻クリニック院長 辻 直樹先生です。これに加えまして、本組合の最新の研究成果をご披露申し上げたいと考え、特任研究員・小田 真隆、研究開発本部長・稲川 裕之よりLPS摂取やマクロファージの健康維持における重要性について老化予防を含めて最近の取り組みを中心に講演させていただきたいと存じます。

本シンポジウムが免疫関連の研究者、予防医療や健康産業に携わっておられる各界の皆様、そして免疫に興味をお持ちの皆様に、究極の病ともいわれる老化防止等に資する自然免疫やLPSに関する研究と開発の現状やこれからの展望を理解していただく機会になるとともに、組合活動を広く皆様の健康維持活動に繋げるための普及広報につながれば幸いと存じます。

たくさんの方々にご出席を賜りますよう、ご案内申し上げます。

## AP品川 アクセスマップ



### 最寄りの交通機関

- ・東海道新幹線・JR各線・京浜急行線をご利用の場合  
「品川駅」港南口より徒歩6分
- ・羽田空港をご利用の場合  
京浜急行快特で品川駅まで14分

**AP品川**  
〒108-0075  
**東京都港区港南6-31**  
**品川東急ビル8F**  
TEL:03-3472-3109

【Google Map】



# 講演者紹介

## 中村 公則 氏

北海道大学大学院  
先端生命科学研究院  
自然免疫研究室  
准教授



1996年 北海道医療大学歯学部卒業  
2000年 歯学博士(北海道医療大学)取得  
2000年-2009年  
札幌医科大学 医学部 分子医学研究部門  
2009年-2013年  
北海道大学大学院先端生命科学研究院  
自然免疫研究室 助教  
2013年-現在  
北海道大学大学院 先端生命科学研究院  
自然免疫研究室 准教授  
自然免疫を起点とする腸管粘膜免疫と腸内微生物の  
共生制御、疾患発症機序について研究。

## 辻 直樹 氏

医療法人社団医献会  
辻クリニック 院長



独協医科大学卒業後、東京女子医科大学病院救命救急センターを経て、同病院膠原病リウマチ痛風センター整形外科、同病院東医療センター整形外科にてリウマチ科、整形外科、手の外科、スポーツ整形外科を経験。現在、東京四ツ谷にて医療法人社団医献会 辻クリニックを開業。診療科目は「エイジングマネージメント」「水素治療」を行う。また、水素治療に関しては、水素の抗酸化作用と抗炎症作用に注目し、アンチエイジング／予防治療への利用と、水素を使った鎮痛治療(ペインクリニック)を行っている。2015年に「一般社団法人 臨床水素治療研究会」を立ち上げ、水素の臨床利用について研究を重ねている。

## 小田 真隆

自然免疫制御技術研究組合  
特任研究員



徳島文理大学薬学部薬学研究科にて博士(薬学)を2005年に取得後、徳島文理大学薬学部微生物学教室にて、助手、助教、講師を経て、2013年より新潟大学大学院医歯学総合研究 微生物感染症学分野 准教授、2016年より京都薬科大学薬学部 微生物感染制御学分野 教授。現在は自然免疫制御技術研究組合 特任研究員、株式会社ル・シエール 研究開発部 部長を兼務。自然治癒力、すなわち自己免疫力を高めることにより社会問題となっている薬剤耐性菌やガンを克服できないかと考え、マイコバクテリウム属やコリネバクテリウム属に注目し、約四半世紀、免疫賦活剤(免疫ビタミン)の開発研究を続けている。

## 稲川 裕之

自然免疫制御技術研究組合  
研究開発本部長



薬学博士、免疫学者。埼玉大学工学部卒業。水産大学校勤務を経て、現在は新潟薬科大学健康・自立総合研究機構客員教授。自然免疫制御技術研究組合研究本部長、NPO法人自然免疫ネットワーク理事を兼務。比較免疫学的研究視点ですべての生物の健康に興味を持ち、難治性疾患予防・治療の研究を、食細胞を基軸に35年間続けている。また、グラム陰性菌のLPSが極めて有用なことを30年前に見出し、以来LPSの基礎と実用化について研究を展開している。著書に「LPSの秘密」「LPSの美肌力」(ともにニュートリエントライブラリー)などがある。